人材育成重点枠「広域連携」の概要がわかる説明資料

資料3－1

兵庫五国の特色を活かした「ひょうごSSHコンソーシアム」による未来のトップ科学技術人材育成プログラムの開発

「ひょうごSSHコンソーシアム」は幹事校（神戸高校） 参画校（県内SSH校）で組織し，プログラムに参加した学校を連携校とする

①五国SSH連携プログラム

（1）トップ科学技術人材育成カリキュラム

各参画校が開発、改良してきたトップ科学技術人材育成のカリキュラム等をコンソーシアム内で検討、それを担当校が実施し、他の参画校や連携校の生徒もそのカリキュラムに参加することでその効果を検証し改良を行う。各地域の資産や施設や人材を活用したプログラムや共通するテーマ、対象同じくする研究を交流と議論を行う中で協働して進める等。

（2）科学技術人材インキュベート講座

大学での連携講座 大学での複数回の連続講義と実験、大学教員と高校教員が協議し、大学で学ぶレベルの内容を参画校等の生徒が集い学ぶ。

科学系オリンピックに向け参画校が分野を分担し、高度な内容の講義や演習を取り入れ、複数の参画校等が参加して合同で行う。SSH卒業生も活用する。必要であれば大学教員も活用する。

上記プログラムにおいて参画校等が遠距離の場合はWeb回線等で議論できるシステムを利用して連携講義・演習会・相談会等を行う。

プログラムの効果

優れたカリキュラムによって生徒の興味・関心のある分野でのハイレベルな経験ができる。
研究活動で協働し、交流や議論を行うことで研究が進展する。

さらに進んだ内容を理解し、それを活用して実験を行うことで高度なサイエンスの探究の手法を学ぶことができ探究活動を進める力がつく。

科学技術人材に必要な，コアとなる力や周辺領域の力が高いレベルで育成される。

②科学技術人材育成フィードバック会議

参画校のSSH卒業生の若手研究者や大学院生などを招き、高校で受けた科学技術人材育成カリキュラムを検討する会議を開催。

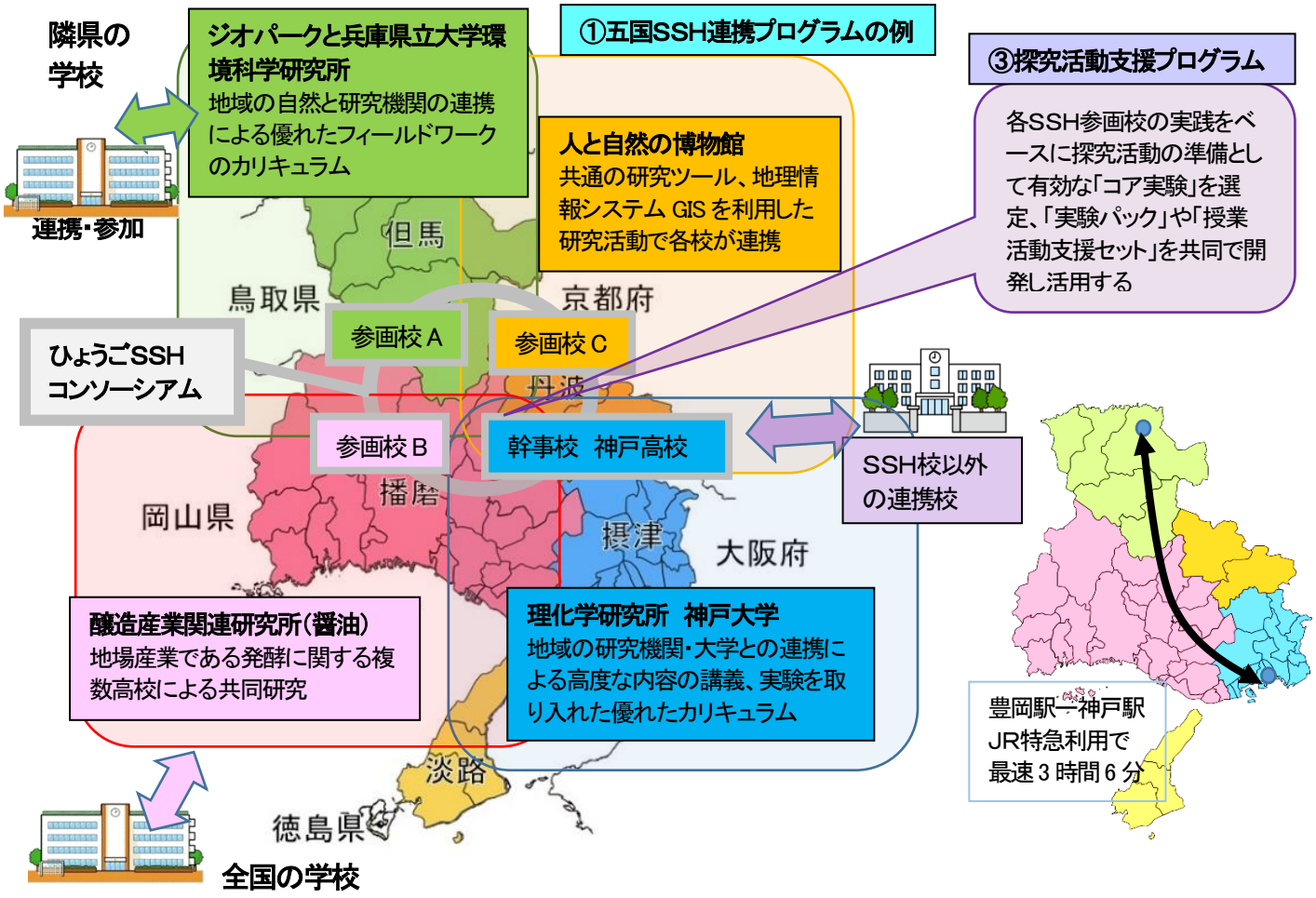
プログラムの効果

自校出身者の意見徴収では得られない情報を得ることができ、カリキュラムの改良に寄与する。

③探究活動支援プログラム

参画校で協議して選定、考案する見通しを持って探究活動を行うために有効な実験等のカリキュラム開発。

④「科学技術ネットワーク」の活用でさらにその効果を上げる

参画校での実践より生み出された様々なカリキュラムがさらに改良され、汎用化されて優れたものとなり、参画校以外にも普及し科学技術人材の厚みが増す。

プログラムの効果